

白鳥の歌 — 作曲家たちの晩年の名曲

AAFC8 月例会 金古 尚

作曲家たちの晩年の作品たち。そこに至る人生、作品群を考えながら彼らの「総決算」とも言える作品を聴いてみたいと思います。そこから聞こえてくるものは・・

バッハ (1685- 1750) : ロ短調ミサ曲 (作曲年代 1733- 1749)

グローリア 2'01

ミュンヘン・バッハ管弦楽団 カール・リヒター (Archiv ミュンヘン 1961)

バッハの創作活動の総決算として最晩年に作曲されたこの作品は宗教音楽の1つの頂点とさえ考えられています。この作品のかなりの部分がこれまで作曲した教会カンタータからの改作であることも特長です。内容もこれまでのミサ曲の構成とは異なっています。グローリアは第4曲にあたり、3本のトランペットとティンパニで華やかに演奏されます。

ベートーヴェン(1770- 1827) : 弦楽四重奏曲第14番嬰ハ短調(作曲年代 1825- 1826)

第6楽章、第7楽章 1'33- 6'25

アルバン・ベルク弦楽四重奏団 (EMI 1983)

ベートーヴェンは弦楽四重奏曲でも今までの4楽章制を離れ、独自の世界を拓いていきます。この作品は7楽章あります。情感と情念の深さとその中から出てくる毅然とした感覚はこの弦楽四重奏曲の素晴らしさだと思います。かつて彼は「この曲は私の書いた最良の作」と語ったと言われます。ベートーヴェンはこの作品をシュトゥッターハイムという人に贈っています。この人はベートーヴェンの甥カールのために力になった人でした。

シューベルト (1797- 1828) 歌曲集「白鳥の歌」(作曲年代 1828)

第1曲 春のたより Liebesbotschaft 4'37

ディートリッヒ・フィッシャー・ディスカウ ジェラルド・ムーア (DGG 1972)

シューベルトの「白鳥の歌」は「水車屋の娘」や「冬の旅」と違ってストーリー性はありません。彼の最後の年に作曲された14曲をまとめたもので彼の死後、出版されています。表題も出版者によって付けられています。詩はレルシュタープによるもので、この第1曲は小川に愛を托すというシューベルトにはお馴染みの世界です。軽快な旋律が聞きものです。ただ、この曲集の後半はハイネの詩によりますが、曲想は一転、暗い現実感を感じさせるものになっていきます。

《大意》 さらさらと流れる小川よ、明るく銀色に輝き、恋人のもとへ急ぐのか、うきうきと一目散に。 ああ、親愛なる小川よ、僕の使者になってはるかからの挨拶をあの人に伝えておくれ。 (一部略)

あの人が岸辺で夢に沈んで僕のことを思って頭を垂れていたら、親しげな眼差しであ
の人を慰めておくれ。あなたの恋人はじきに帰ってくるからと告げて。

あかあかと輝いて夕陽が沈んでいったら愛しい人を眠りにつかせ、つぶやきとともに
甘い安らぎに入らせてその夢の中に愛をささやいておくれ

ショパン (1810- 1849)： チェロ・ソナタ ト短調(作曲年代 1846)

第2楽章 Scherzo.Allegro con brio 4'50

マルタ・アルゲリッチ ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ (DGG)

長年の友人であったフランスのチェロ奏者フランショムとの友情に報いる意味で書かれ
たと言われています。この頃のショパンは体の衰弱が進み、ジョルジュ・サンドとの仲も陰
悪になっていったと言われていますが、作品自体は自由な広がりを持ち、ピアノ作品ではな
いものの彼の最後の境地を感じさせる作品になっています。第2楽章もピアノの和音に乗
ってチェロが豊かに歌います。

ブラームス (1833- 1897) クラリネット五重奏曲 (作曲年代 1891)

第1楽章 Allegro 11'59

アルフレート・プリンツ ウィーン室内合奏団 (Co 1980 ウィーン)

この頃のブラームスは作曲の不安を感じ、創作力の衰えを感じていました。以前の改作や小
品の作曲を中心に仕事の整理を考えていたようです。ところが優れたクラリネット奏者ミ
ュールフェルトに会って新しい情熱を感じ、クラリネットの特性を十分に活かした作品を
思い立ちます。この作品にはクラリネットの特性とともに作曲者の孤独な感情や諦観も盛
り込まれました。深い情感を感じさせる作品です。演奏はウィーン・フィルの奏者たちによ
るものです。

モーツァルト (1756- 1791) レクイエム (作曲年代 1791)

アーニウス・デイ 聖体拝領誦 11'24

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 カール・ベーム (DGG 1971 ウィーン)

モーツァルトはこの作品を書き上げることはできませんでした。作品は弟子のジェスマイ
ヤーに託されます。第7曲聖体拝領誦は第1曲の入祭文の後半をここに移して進められま
す。入祭文の同じ歌詞があるので曲を揃え、さらに最後に壮大なフーガを持って曲を終えよ
うとしたのでしょう。